

2021年度 国内フィールドスタディ A (国際協力) 募集要項 「草の根で平和を創る人びと」

1. プログラムの目的

- ・ 国際協力の課題を当事者の立場に接近して理解する姿勢を身に付ける。
- ・ 国際協力の課題を、海外の他者の課題として考えるのではなく、日本の課題と海外の課題のつながりとして理解する。
- ・ 上記の理解にもとづき、国際協力の課題を一方的な支援として解決するのではなく、双方向に協力して解決する視座と実践力を身に付ける。

2. 対象

異文化コミュニケーション学部 に所属する正規学部学生（正規留学生を含む）。
なお、本科目は年度ごとに重複履修も可能である。

※以下の科目を履修しておくことを推奨

DM535/国際協力・開発学概論

DM407/Introduction to International Development and Cooperation

DM544/国際協力・紛争研究概論

DM607/フィールドワーク

DM673/国際協力・開発学特論

DM540/国際協力・紛争研究特論

DM542/多文化共生概論

DM664/多文化共生特論

3. 募集人数

8名（最低催行人数2名）

4. プログラムの概要：

本科目は、暴力事件や社会問題の影響を受け、分断され、その結果として不利な立場に置かれた人びとの側に寄り添い、分断を乗り越える活動を行う人びとを「草の根で平和を創る人びと」と称し、着目する。彼／彼女らの活動現場を訪れることを通じて、当事者や当事者性を引き受けている人びとが抱えている困難な状況への共感力を養う。当事者へ寄り添うことや、分断を乗り越えることに、それぞれの困難があることへの理解を深める一方、活動が共感と呼び、草の根で平和の礎が築かれている様子を学ぶ。

前半部では、関東大震災後の朝鮮人虐殺をテーマとする。日本国内で起こった虐殺と進まな

掲示日：2021年3月1日

い政府レベルでの和解の問題に目を向けることを通じ、海外の武力紛争後の和解というテーマが他人事ではなく、日本と海外の課題が連続しているものとして理解する視点を培う。

後半部では、日本社会における移住者をテーマとする。当事者から直に話を聞くことで、数字には現れない当事者がそれぞれ抱える困難な状況への共感力を養う。そのうえで、当事者に寄り添う活動や人びとから直に話を聞き、学生として、社会の一員である個人として何ができるかを考える。

費用：約 7,000 円（交通費）

5. 日程

※面接等は対面での実施を予定していますが、新型コロナウイルス感染症の状況によっては、オンラインに切り替える可能性があります。

3月1日（月）15:00	プログラムの募集要項公開 (WEB 掲示板/後日 R Guide にも掲載)
4月2日（金）15:30-16:00	募集説明会（オンライン） ※開催情報は R Guide (3/19 公開予定) をご確認ください。
4月7日（水）～9日（金）17:30	参加者応募受付期間
4月12日（月）	面接連絡（メール）
4月13日（火）昼休み	説明会 兼 面接選考会（X108）（対面予定）
4月14日（水）	履修者決定・発表（R Guide）
授業スケジュール（予定）	1回：4月19日（月）2限（6205 教室） 事前研修：導入、課題の提示（座学） 2回：4月24日（土）3-4限（6205 教室） 関東大震災と朝鮮人虐殺を考える（参加型授業） 教科書：加藤直樹『九月、東京の路上で 1923年関東大震災ジェノサイドの残響』第6刷 ころから、2017年 3回：5月8日（土） 虐殺の跡地を訪ねる（FS：東京都慰霊堂復興記念館<横網町公園>、一般社団法人ほうせんか<最寄駅八広駅>訪問（FS：西崎雅夫さん） 4回：5月10日（月）2限（6205 教室） 振り返りと第5、6回のFSの準備（座学） 5回：5月15日（土） 虐殺の跡地を訪ねる（FS：千葉県八千代市） 6回：5月22日（土）

2021年3月1日
異文化コミュニケーション学部

揭示日：2021年3月1日

	<p>虐殺の跡地を訪ねる (FS：千葉県野田市)</p> <p>7回：5月29日(土) 3-4限ディスカッション (6205教室)</p> <p>講師：加藤直樹さん</p> <p>8回：5月31日(月) 2限 (6205教室)</p> <p>振り返りと9-12回の導入 (座学)</p> <p>9回：6月5日(土) 3-4限 (6205教室)</p> <p>KAFIN創設者アガリンさんのお話を聞く</p> <p>10回：6月12日(土)</p> <p>KAFIN移住者センター (フィリピン人女性に対する相談・支援団体)を訪ねる (FS：埼玉県蕨市)</p> <p>11回：6月19日(土)</p> <p>KAFIN移住者センター (フィリピン人女性に対する相談・支援団体)を訪ねる (FS：埼玉県蕨市)</p> <p>12回：6月26日(土)</p> <p>移住連を訪ねアフシンさんのお話を聞く (FS)</p> <p>13回：7月12日(月) 2限 (6205教室)</p> <p>発表</p> <p>14回：7月19日(月) 2限 (6205教室)</p> <p>発表と振り返り</p>
--	---

2021年3月1日
異文化コミュニケーション学部

6. 応募方法

オンライン出願書を応募受付期間内に留学準備室に提出すること。オンライン出願書には志望動機（設問以下参照）を記載する必要があります。オンライン出願書の一時保存はできませんので、予め志望動機を作成の上、フォームにアクセスして回答してください。

【オンライン出願書】

QRコードにアクセスし、必要事項を入力、送信すること。



【志望動機 設問】

※分量目安：①②③合わせて、A4判 40字 x 30行ワープロ書き 1枚程度

- ① プログラムへの参加を希望する理由
- ② 国内フィールドスタディで学んだことをその後の学習／研究、自身の生活／キャリアにどのように活かしたいか？
- ③ このプログラムに参加することで異文化コミュニケーションについてどのようなことを学びたいか？

【応募受付期間】2021年4月7日（水）～9日（金）17:30（時間厳守）

7. 選考

書類および面接による選考を行い、履修者を決定する。

8. 履修登録方法

(1) 国内フィールドスタディ A への参加が正式に決定した学生の履修登録は、4月の履修登録期間に大学が行う。Web サイトの履修登録画面で正しく登録されているか確認すること。

(2) 履修登録の取り消しはできない。

(3) 原則として履修中止対象外科目であるが、感染症流行および自然災害等やむを得ない事由によりプログラムが中止となった場合、また長期療養等の事由によりプログラムに参加できなかった場合は、履修中止申請可とする。

※後者の場合には、事実が確認できる証明書類を提出すること。

9. 成績評価方法

以下の評価基準に従い、5段階評価（S、A、B、C、D）を行う。

- ・事前学習への参加（25%）
- ・現地実習（FS）への参加態度（50%）

- ・事後学習（振り返り）への参加（15%）
- ・学習内容の報告（レポート）（10%）

10. 注意事項

- ・本科目を履修する場合、春学期月曜日2限、および土曜日に行われる他の科目を履修することはできない。
- ・現地活動日程はあくまで予定であり、都合により変更となる場合がある。
- ・費用はあくまで予定であり、為替レート、諸税の変動等により若干変更となる場合がある。
- ・最低催行可能人数に達しない場合には、プログラム実施を取りやめる場合がある。その場合、履修登録は行われない。
- ・感染症流行および自然災害等やむを得ない事由によりプログラムを中止せざるを得ない場合がある。その場合は、履修中止申請が可能であるが、万一、公共交通機関の規定に応じてキャンセル料が発生した場合には履修学生が負担しなければならない（実習部分のオンライン対応は行わない）。
- ・実習日当日に37.5度以上の発熱等があり、実習に参加できない場合、予め担当教員に申し出て、代替措置について指示を仰ぐこと。新型コロナウイルス感染症を始めとした各種感染症対策を日々十分に行い、万一の場合には受け入れ先、他参加者への影響を鑑み、無理をしないこと。

11. 問い合わせ

異文化コミュニケーション学部 留学準備室（M607）

cic-ryugaku@rikkyo.ac.jp

件名は「国内フィールドスタディ A 問い合わせ（氏名）」としてください。